

岐阜県立多治見高等学校

学校長 土本 泰
学校住所 多治見市坂上町9-141 電話 0572-22-4155

1 会議の名称 岐阜県立多治見高等学校評議員会 (第2回)

2 会議の構成 委 員 加藤 芳美 本校育友会役員
田牧 朋子 本校卒業生
長崎 恵美 まちづくり株式会社
匹田 浩司 JR東海多治見駅主席助役
若尾 淳一 多治見青年会議所理事長

(委員名は五十音順)

学校側	土本 泰	校長
	水口 猛	教頭
	酒井 光司	事務長
	伊藤 昭嘉	教諭 (教務主任)
	加藤 元規	教諭 (生徒指導部長)
	岡崎 正路	教諭 (進路指導部長)
	田内 功	教諭 (保健厚生部長)
	堀 裕邦	教諭 (特別活動部長)
	西田 智子	教諭 (教務部)

3 会議の目的 学校運営や教育活動について地域社会や保護者などに説明責任を果たすとともに、要望や意見を幅広く聞き、地域社会からの支援・協力を得て、それを反映できる開かれた特色ある学校作りを推進する。

4 会議の開催 平成29年 2月15日(水) 13:30~16:00 多治見高等学校校長室
委員5人と学校側9人が出席

5 会議の概要

学校からの説明

○ (校長)

評議員の皆様、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。1月27日(金)に甲子園出場が決まり、校内は慌ただしく動いているところです。会議室に待機していた野球部の生徒に当日出場を伝えに行ったときに、私としては檄を飛ばす勢いで入ったが、野球部の生徒の反応が今一つで「やったー、頑張ろう」といった感じが伝わってこなかった。そういう所がうちの課題かと思う。3年間アクティブラーニング(以下AL)の研究指定を受けており、今日見ていただいた課題研究も含め、人前で自分の意見が言えるような生徒に育てていきたい。今日は忌憚のないご意見をいただき、実りある会にしていきたい。

○ (教頭)

今回の会議は「生徒および保護者等を対象とするアンケート」の結果および自校評価を元に進めるが、5分野を一度に行うのは大変なので、前半と後半に分けて説明とご意見を頂戴する形で進めた後、ALについて、最後に全体の意見を伺うような形で来年度につなげていきたい。

○ (教務主任)

アンケートについては何%だからいいというものではなく、昨年度との比較や他校との比較を通して生かしていくものである。あまり細かいところにとらわれないことも大切である。

教員の熱意、知識、教え方については、昨年、一昨年と同様にAB評価が70%前後であった。これがいい数字なのかどうかはわからないが、進学校として可能な限り100%に近づけていき

たい。一方習熟度別授業や少人数授業については、生徒に比べ保護者の理解が低く、一層の広報の必要を感じている。家庭学習時間については昨年度より確保できるようになっているが、さらに努力をしていきたい。

成果と課題についてはALについては研究授業や研修を重ねる中で下地ができてきている。生徒による授業評価のアンケートも行っており、独りよがりではなく生徒の評価も参考にしながら授業改善を進めたい。考査前に3時間の家庭学習を行う生徒が増えたが、時間だけでなく内容も大切である。

本校は進学校として結果が求められる中で少人数授業や習熟度別授業の効果についてよく検証し、来年度につなげていきたい。ALは評価基準が難しい。

○（進路指導部長）

生徒アンケートでは、進路情報の提供、進路指導のあり方についてマイナス7～8%で、こちらが提供する情報がうまく生徒に伝わっていない。担任との連携をしていくように改善していきたい。塾に通う生徒が増加している。かつては塾に通う暇がないほど宿題を出してきたが、今は変わってきた。以前は塾に通っていても、3年生になると塾を辞める生徒が大半だった。もっと生徒に対して教員が関わることも大切である。推薦について保護者の理解が十分でなく問題になったことがあったので保護者への説明の機会を設ける。補習・サタスタについて生徒の評価がさほど高くない。教員側もサタスタをやる意味をもう一度考えて指導に当たってもらいたいことをお願いしたいと思っている。保護者に対する情報発信についてはメール配信も進路から直接できるようにしたので、今後も活用していきたい。

外部講師の活用（今年度は2年生の進路説明会で進学費用について外部講師を招いた）をこれからも進めたい。また「総合的な学習の時間」を見直し、プレゼンテーションや小論文等、人前で意見を話せるものに内容を変えていきたい。また、大学から担当者に来てもらって直接生徒に話してもらい、国公立大学のAO・推薦入試への意識付けを行う。

学校評議員からのご意見・ご感想

（意見1）

人前で話すのが苦手な子にとっても、入試も踏まえて学校で本日のような活動を取り入れてもらうのはいいと思う。多治見高校の生徒が挨拶運動の中で小中学校の子とタッチしている写真があるが、いいなと思った。実際に挨拶運動の時に多治見高校生と一緒にだったが、挨拶も元気にしてくれて良かった。

（意見2）

習熟度別や少人数授業については、数学を3つのクラスに分けていると子どもから聞いた。分からない子がそのままにならなくていいと思うが、保護者は知らない人も多いと思う。自宅学習の勉強時間の差については家では誘惑に負けて、成績が上がらない、塾でやらされるとやらされる安心感がある。早く目的を持つと頑張ることができて、勉強もやれるようになる。やりたいことを見つけるのがまず大切だと思う。

今日の自然科学コースの課題研究の発表会では、パワーポイントを使ってしっかりと研究発表をしており、希望者が少ないコースだと聞かすが、すごくいい学習ができるコースだと感じた。

（意見3）

卒業した子が3時間の学習にこだわる理由が分からないと言っていた。内容を充実させることが大切。私の子どもは会社員となって5年目だが中高で教えてほしかったのは〇〇学部に行くと〇〇の職業に就けるといった情報であったと言っている。私の子どもは機械工学を勉強してそちらの仕事につけたのでよかったが、学部によっては制限されることもあるので、親にも様々な進路の情報が欲しい。

（意見4）

企業という立場からみると、若い社員と生徒、先生と管理者が同じような感じだと思った。高卒の社員教育を行う際には、仕事としてどうしなければならないのかを理解し、その理由を納得していないと仕事をこなすだけになり、楽な方へ流れて失敗してしまう。理解し納得させるまでが本当に大変である。会社でも300人から400人を前にプレゼンテーションすることがあり、さきほどの課題研究の発表はとてもよかった。反面、野球部の子が感情を表せないでいたのは、

恥ずかしかったりしてうまく表現できなかったのではないか。その子の本心を見極めることが大切だと思う。

(意見5)

課題研究では発表の準備をしっかり行いプレゼンテーションをしていて感心した。先ほどの進路指導部の話についてであるが、学校では塾に行かなくてもいいような授業をやってきたということなのか。

(進路)

私はこの学校へ来て9年目だが、8年ぐらい前はやれないくらいの課題が出ていた。やりきれない生徒が出るようになって方針が変わった。以前は3年生になると塾をやめていたのが今は4割くらい行っている。

(意見6)

塾へ行かないならどうするのか。

(進路)

いつでも自習室でやれるという状況を作っていきたい。

学校には大学の担当者が直接来て、いろいろな情報を伝えてくれるので最新の情報を持っている。それなのに塾の先生が言うからと生徒が志望校を変えてしまう。塾を優先させてしまう生徒もいて、学校から与えられた課題をやらずに塾の宿題をやっていたりする。きちんとやった子にきちんと結果を出させて後輩に伝えたいと思う。

(意見7)

どうして生徒は塾に行くのか。

(教務)

学校は基本的に一斉授業で、適切に面倒を見ることができない部分を塾で補って個々で教えてもらって乗り切っている子もいる。心のけじめとして、塾で、さあやるぞというきっかけ作りに塾を使っている子もいる。

(意見8)

なるべく塾ではなく、と言っているように聞こえた。

(意見9)

塾に行かなくても、授業をまじめにやって、やるべきことをきちんとやればよいと私の子どもも言っていた。

(教務)

学校からの課題をきちんと取り組まないで塾に行っていたりする。週末の課題については他校の様子なども参考に教科間の連携を図りたい。

学校からの説明

○ (生徒指導部より)

保護者の評価は生徒より高く、指導は受け入れられていると思う。実際に生徒は落ち着いており、これは多治見地区全体にも言える。岐阜県内で比較してもこの地区は落ち着いており、反面おとなしすぎてやんちゃで覇気のある生徒は減っているかもしれない。

交通事故については前年度の17件から8件へと減っており、大きなものもない。遅刻は前年度の609から477と2割減少した。情報モラルについても、県のネットパトロールで指導を受けることもなく、盗難も0件である。

今年度はMSリーダーズを中心に、挨拶運動などを特別活動部とも連携して、人の役に立つ活動ができた。携帯電話のモラル面の問題は低年齢化しており中学校に移ったが、長時間の使用については相変わらず問題である。便利な道具として使ってしまうが、それぞれがセーブできるとよいと思う。校内では前から使用禁止にしており、他校でも本校同様に禁止する動きが出ている。家庭での携帯電話の使い方についても学校から生徒に向けて意識付けをしていきたい。

○（特別活動部）

「Have a Dream Project」などの講演会は生徒からも保護者からも好評である。講師の選定など大変だがこれからも継続していきたい。

部活動についても80%以上の生徒や保護者から満足であるという評価をいただいている。実績だけでなく、生徒の居場所作りとしても部活動を考えていきたい。

ボランティア活動については生徒の参加を促進するとともに、保護者の理解を深めたい。HPに載せたりはしているが、どのように広報していけばいいのかアドバイスしていただけるとありがたい。生徒たちは言われたことをやるという状況から、自分たちでやれる状況になりつつある。

○（保健厚生部）

明日、学校保健委員会があり、生徒の健康や環境についてはそちらの委員会で進めていきたい。学校の環境については少しずつ改善しており、トイレの改修や廊下の改修等を行っていただいた結果、平成25年度（改修工事前）のアンケートより10%以上の向上が見られた。また、別にもアンケートをとり来年から防災美化委員の活動として取り組んでいきたい。

防災面ではメール配信により保護者や生徒への連絡が行われ、評価も向上した。

学校評議員からのご意見・ご感想

（意見10）

甲子園の出場には子どもたちもとても喜んでいて、学校全体で団結できるのはいい。

AEDについての救急救命講習も学校で行われているので、いざという時にAEDも使えるのでよいと思った。

雪の日の遅刻についてだが、雪が降るとわかっていても私の子どもはいつもと同じバスで行こうとする。自分で見通して動くことが大切である。課題についても先を見越して、例えば週末に試合があるなら先に済ませるということができるようになるとよいと思う。

（意見11）

多治見高校の生徒がお店の前を何百人も通っていくが、みんな挨拶もさわやかでよいと思う。救急救命講習はこれからも続けてもらいたいと思う。学習できるスペースが学校にあるのは生徒にとっていいことだと思う。塾に行く理由が学習スペースの確保だったりするので、学校にそうした場所があるのは家庭にとっても助かる。

野球部の甲子園出場は多治見市中で話題になっており、応援に行くという声も聞いている。インタビューをテレビで見たが、キャプテンの子がしっかりと受け答えしていてすごいと思った。社会人の子どもが毎年甲子園に行っているが、甲子園には特別な空気がある。高校生の子たちにとってもいい思い出になる。

（意見12）

駅のホームで、スマートフォンや話に夢中になっていて、線路に背を向けていて非常に危険なので伝えてほしい。

遅刻については企業では絶対に許されない。会社でも遅刻撲滅、と声に出して確認している。今のうちに遅刻はダメだということをしっかり伝えてほしい。大学でも会社でも大切なことである。

会社でも若い社員が休憩時間にスマートフォンを操作していて周りとのコミュニケーションがとれなかったりするので、管理者が話しかけに促してコミュニケーションをとれるようにしている。

あいさつ運動や清掃活動といったボランティア活動を通じて、身体の不自由な方への声かけなどをしてくれる優しい生徒になるとよいと思う。

多治見駅には毎年家庭クラブから座布団を寄贈してもらっているが、年配の方からたいへん好評である。これからも続けてもらえるとありがたい。

学校からの説明

（教頭より）

3年間の研究指定を受けALを軸とした授業改善に取り組んでおり、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れている。問題点として、ALは手段なのに目的になってしまっているところが挙げられる。大学入試に対応する学力をつけさせることと活動とをうまく

連携させていくことが必要である。

生徒にとってALを何のためにやるのかが納得できていない部分がある。先ほど理解と納得というお話をいただいたが、来年度は最初からしっかり納得させていくように取り組んでいきたい。残りの資料やHPに掲載している記事もまたご覧いただければありがたい。

6 会議のまとめ

(校長)

半日ありがとうございました。貴重な意見をいただき、これからの学校運営に生かしていきたい。部活動も勢いがあり、野球部だけでなく、弓道部や空手部等の運動系や科学部等の文化系も全国大会や中日本大会への出場を果たしている。廊下にある美術部員の絵は来年度宮城県で行われる全国総合文化祭に出展されることが決まっている。また学校の運営や生徒の様子等でお気づきの点がありましたらご忌憚のないご意見をいただきたいと思います。本日はありがとうございました。